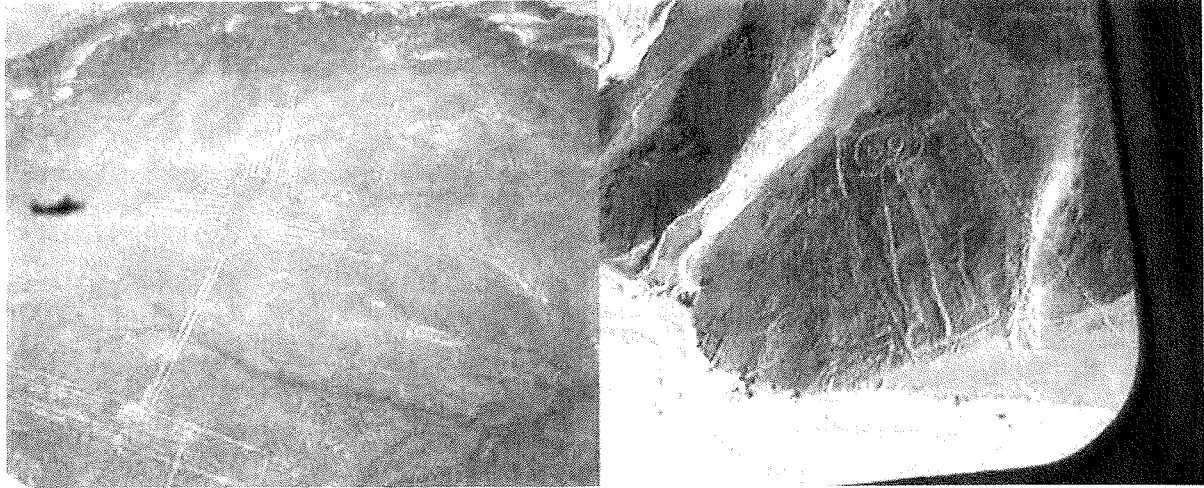


日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
 〒 480-1195
 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字羅又 21
 愛知医科大学医学部衛生学講座
 電話 (0561) 62-3311
 FAX (0561) 63-8552
 発行責任者 小林 章雄

(題字 皿井 進筆)



ナスカの地上絵 (飛行機から撮影)

■■■ 時代の変化に思うこと ■■■

加藤 隆康 (株) グッドライフデザイン、(兼) 北里大学客員教授



産業衛生学会東海地方会事務局の柴田先生から、原稿と写真を依頼された。私には、原稿と写真を結びつけて文章を書くほどの文才は無いので、バラバラな原稿になることをお許しいただきたい。

この写真は、ペルーのアンデス山中に在る「ナスカの地上絵」を飛行機の中から撮影したものである。古代の人々が、このような場所に、非常に大きく、正確な絵を、何のため作成したのが、ロマンは尽きない。

さて、私は昭和 49 年に大手の自動車会社に就職し、安全衛生環境担当部署に配属となった。そして、衛生管理者として 35 年が過ぎた。現在は、子会社に転籍となったが、いまだに、労働衛生関係業務とは縁が切れず、産業衛生学会にもお世話になっている。

衛生管理者になった頃、環境問題(公害)は我が国において、大きな課題であり、企業においても経営上のリスクとなっていた。

また、作業環境も同様で、粉じん、有機溶剤、特化物、オイルミスト…汚い、暗い、臭いなど、従業員が

らの苦情で重い測定器を担いで現場を走り回る毎日であった。また、作業姿勢や重量物取り扱い、エアート具の取り扱いなど人間工学的手法を導入し解決を図ってきた。

時代も代わり、個人の問題であった健康管理も今や、福利厚生や安全衛生法を遵守すればよい時代から、インフルエンザの従業員への感染拡大、メンタルや過労死による民事訴訟、定年退職後の職業病発生、従業員の高齢化、事業のグローバル展開など従業員の健康確保は、企業経営のリスクとして捕らえ、管理すべき時代に入ったと言える。

そして、産業保健も、マネジメントシステムやリスクアセスメントを導入し、その時代に合った組織・システムを構築する必要性が有り、産業保健スタッフも責任の重さを自覚し、業務を展開する必要があるのではないだろうか。

今年、政治も大きく変化した。国民が健康で、安心して生活できる国になるよう祈念し稿を終える。

研修開催報告

第23回産業保健スタッフのための研修会

開催日：平成21年3月6日（金）

場所：名城大学薬学部1号館7階ライフサイエンスホール

参加者：117名（会員64名、非会員53名）



小林地方会長



吾澤事業部長



杉本事業部副部長



岩田全充氏

講演1：「企業における新型インフルエンザ対策と産業保健職の関わり」
トヨタ自動車健康支援センターウエルボ所長・統括産業医 岩田全充



安川隆子氏

講演2：「海外渡航者の健康管理」
聖隷浜松病院総合診療内科 安川隆子



佐藤理之氏

指定発言
愛知県歯科医師会理事 佐藤理之



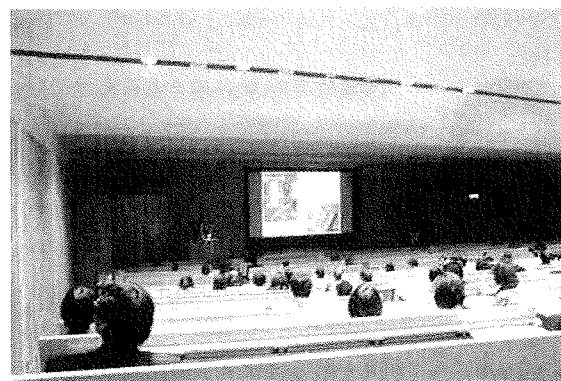
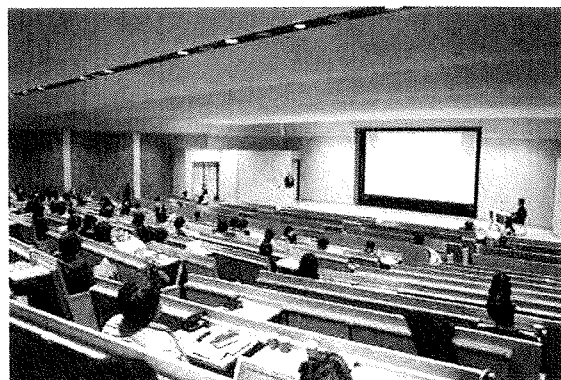
柳 務氏

講演3：「認知症の予防と治療 —その基本的理解と産業保健的対応について—」
認知症介護研究・研修大府センター長・名古屋第二赤十字病院名誉院長 柳 務



矢野栄二氏

講演4：非正規労働と健康
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教授 矢野栄二



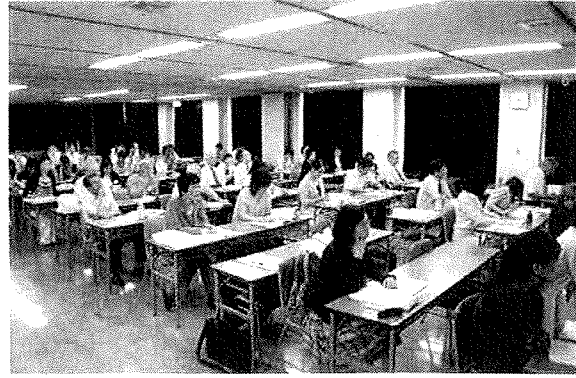
平成 21 年度日本産業衛生学会
東海地方会総会並びに研修会

開催日：平成 21 年 6 月 26 日 (金)
場 所：四日市農協会館 8 階南ホール
参加者：78 名



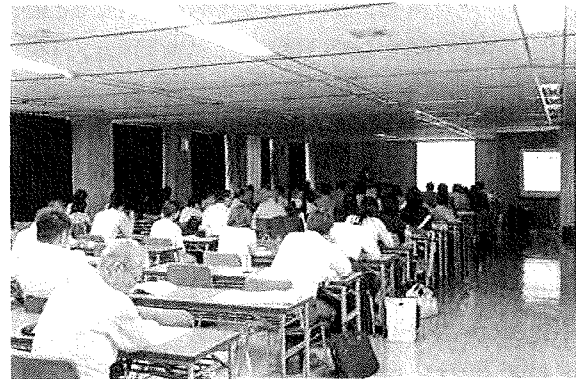
庵原俊昭氏

特別講演Ⅰ：「事業活動と感染症対策」
独立行政法人国立病院機構 三重病院
院長 庵原俊昭



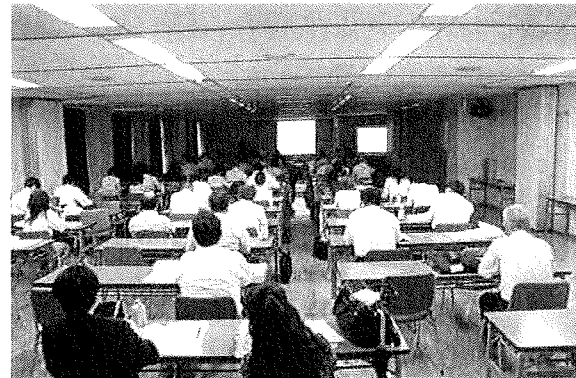
坂井 隆氏

特別講演Ⅱ：「肺結核の現状と予防対策」
独立行政法人国立病院機構
三重中央医療センター院長 坂井 隆



橋元慶男氏

特別講演Ⅲ：「健康と笑い」
岐阜聖徳学園大学教育学部教授
橋元慶男



和田企画運営委員会代表



上原監事



奥田事務局長

上尾・今年度地方会学会長

奥谷博俊先生追悼

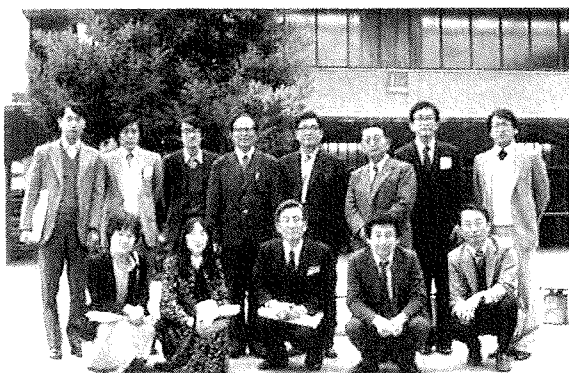
奥谷博俊先生の略歴と業績



大正8年奈良県大和高田市に生まれる。昭和19年名古屋帝国大学医学部卒業。昭和35～58年名古屋市立大学医学部教授。じん肺、黒鉛肺、綿肺を始め、職業性呼吸器疾患・鉛中毒・ベリリウム中毒について発生実態を解明するとともに、医学的管理としての診断法と環境管理方式を確立した。中小零細企業の衛生管理にも特に関心を持ち実践活動も熱心に行った。労働衛生学分野での我国の先駆者の1人。日本産業衛生学会評議員、理事を歴任、その後日本産業衛生学会名誉会員となる。当地方会でも指導的な役割を果たした。昭和36～44年、50～53年本部理事、昭和33年～59年地方会理事（33～47年は旧定款上の常任理事）。昭和33年度（7月）、35年度（5月）、38年度、49年度の4回に渡り、地方会学会長を務める。また、昭和35年のじん肺法施行を受けて、地方会に設置されたじん肺協議会は昭和34年から44年まで14回の集会を開催したが、会の発足から閉会に至るまで世話人として当地方会のじん肺研究と防止対策の指導にあたった。



中国訪日団に瀬戸敏山を案内する奥谷先生（1986年5月）
（左から2人目）



第50回日本衛生学会に参加した名市大・名大関係者とともに（1980年3月）
（後列右から3人目）

故奥谷博俊先生を追悼する

松本 忠雄



去る2009年2月20日に恩師奥谷先生は89歳で逝去されました。私は1980年5月より先生が1983年3月までの約3年間、名古屋市立大学公衆衛生学教室の助教授として、先生の下で薫陶を受けました。また先生が退職された後も、瀬戸健康管理センターにおいてご助言を頂きました。先生は労働者の健康と福祉のためにはどんなことも厭わないで、実践を重視されました。このことは、生涯を通じて最後まで一貫しており、その情熱は赤々と燃える火のようでした。瀬戸健康管理センターのフィールドは、先生のご援助を得て、鉛中毒予防や塵肺予防のほか有機溶剤、騒音振動障害、頸肩腕障害などさまざまな健康調査や保健対策・環境対策を進めたことが懐かしくよみがえってきます。名古屋市立大学を退職されてから、先生は日本ロータリークラブの中部地区

のガバナーとしてご活躍で、多くの地区のクラブへ出席して親しく交流することを重視されました。ロータリークラブの記念誌を編纂されたりして、活動の継続的な発展を図ることに心を砕かれました。愛知県の辺鄙な地方のみでなく、遠く長野県の各地へもよくお出かけになりました。ロータリークラブの活動を心から大切にされて、楽しそうにいろいろお話になったことを昨日のこのように思い出します。また行政についても厳しいご意見があって、しばしば熱弁を振るわれて、私たちは驚いたことともありました。先生のお話を聞いていて、学者は学問がどのように役立てられるかを常に考える事が大切であると教えられました。

先生に初めてお会いしたのは44年前、1965年に私が名古屋大学の衛生学教室に大学院生として入局したころです。先生は名古屋市立大学教授で多忙な中でも、大先輩の非常勤講師として、毎年学生の講義と並んで、衛生学教室の数名の大学院生・教室スタッフに講義をして下さいました。先生は当時から、産業衛生学の中でも塵肺や鉛中毒を研究しておられて、この地方の第一人者であることは、誰もが認めることでした。

先生は1919年8月31日に松尾芭蕉の出生地、伊賀上野で耳鼻咽喉科医師の長男として誕生し、親族に医者が多かったためか、幼少時から医者になることを決意されていたようです。1944年に名古屋帝国大学医学部をご卒業後、三重県津市でインターンをされているころから石切り場労働者の塵肺問題に注目されました。その関係で、鯉沼教授が主宰される衛生学教室に入局されました。戦時中から、鯉沼教授の下で工業中毒と塵肺予防の研究を進めると共に、鯉沼教授からテーマを定められた多くの研究生の指導に当たられました。

鯉沼教授は労働官僚出身で、重工業産業が急速に発展しつつあった中京地区の教授に相応しい労働衛生学に造詣のある指導者として招聘されました。教室では鯉沼先生の中心的な業績について鉛中毒の研究を中心に、1956年に論文「工業的鉛中毒の研究補遺」で医学博士号を取得されました。他方、鯉沼教授の委託研究の中心メンバーとして、塵肺の対象業種を網羅して健康診断に取り組み、塵肺の健康管理の元になったじん肺法の基礎となるデータを集積・分析して、鯉沼教授の右腕として研究を推進されました。その後、1960年に名古屋市立大学教授に就任されました。奥谷教授の名古屋市立大学へ転動された当初は、設立後間もなくの頃で、研究費もほとんどない中で、金銭を

あまり使わなくてもできる実態調査中心の研究に取り組んだそうです。

先生の好きな言葉に「上意中医下医」、「職業寿」などの言葉があり、学生に自ら毛筆で書いた教科書を贈呈されていました。私も先生のサイン入りの教科書を頂いております。先生は「医者になるのならスケールの大きな医者を目指して欲しい。」「労働者の職業によって寿命が異なるのは不当だ」との熱い思いが込められたものです。1996年に瀬戸健康管理センターで開催された第42回労働衛生史研究会で名古屋大学と名古屋市立大学あわせての約50年の研究を振り返って、報告しておられます。その内容は、塵肺、鉛中毒、ニッケルカルボニール中毒の3テーマに絞って報告されました。どれも広範囲の取り組みでした。塵肺については業種も多くて日本公衆衛生学会で鯉沼教授が会長講演で発表された内容を満たす研究をされました。先生は、昭和29年に瀬戸窯業健保組合で塵肺相談業務を担当し、昭和35年に瀬戸健康管理センターが設立されてからは、健診率100%を目標にその派生実態の把握、有所見者の事後管理、粉塵調査にもとづく粉塵防止対策、作業方法としては特に防塵マスク着用等、いわゆる衛生三管理を指導されました。昭和38年には、塵肺対策委員会が企業の自主的対策を行うために設立されました。この委員会の活動が認められて、労働大臣団体賞を受賞されております。塵肺有所見者の結核合併率は20%、悪化する者は50歳以上の高齢者に高いことが特徴的であり、塵肺療養者の大半が結核合併によることが判明しました。20世紀後半期に塵肺対策が法制化され、近く撲滅されると期待されながら、21世紀に突入してからも発生が続いているのが現状です。

奥谷先生は島先生の協力を得て、10年余（昭和34年—44年）に亘り東海地方塵肺協議会を主宰され、リーダーとして指導されました。14回の会合の記録もしっかり残っています。また、瀬戸健康管理センターで産業衛生学会の中小企業衛生問題第1回研究会、全国安全衛生大会の中小企業部会を開催されました。このように先生の活動はきわめて先進的かつ継続的でした。私が名古屋市立大学に転動してからは、先生のご退官まで、毎日のように親しくご指導いただき、楽しい思い出が無数にあります。それを大事に胸に秘めながら、先生の目標とされた“労働者の健康と福祉”を前進させるよう、今後一層活動を継続発展させてゆくことをお約束して、先生のご冥福を心からお祈りいたします。

東海地方会員の受賞報告

学会奨励賞を受賞して

上島 通浩 (名古屋市立大学)

先般の第82回日本産業衛生学会で学会奨励賞をいただくことができました。この賞は若手研究者の研究活動を励まし、一層の飛躍を期待する意義があると理解しています。受賞にあたり、喜びとともにその意義を重く受け止めているところです。

思えば私は竹内康浩教授が主宰されていた名古屋大学衛生学の門を叩いて以来、産業現場から課題を見つけ、教室での実験、機器分析、疫学、社会科学的な検討など多面的なアプローチでその解決への道を明らかにし、成果を必ず現場に還すという伝統ともいえる研究スタイルをたたき込まれる一方、教室員の間では遠慮なく徹底的に意見を交わすという自由闊達な雰囲気の中で育てられたことに感謝しています。

これまで、有機溶剤中毒研究に始まり、室内空気環境と室内で活動する人々の自覚症状の関連、農薬・殺虫剤が取り扱い作業者に及ぼす生殖影響、中国で発生したトリクロロエチレンによる重症皮膚・肝障害の実態とメカニズム研究などの課題に取り組んできましたが、いずれも教室の先輩はもちろん、様々の分野の専門家との共同によって初めてできたものばかりです。

この4月から名古屋市立大学環境保健学を担当することになり、受賞とともに私の研究人生は大きな節目を迎えることになりました。現在は小児の環境保健疫学研究班で子どもたちの健康に及ぼす様々な化学物質の影響に関するコホート研究の準備にあたっています。これ自体は環境省のプロジェクトであり、日本産業衛生学会に直接関連するものではありませんが、構成メンバーは当学会で指導的な活躍している方々が多くを占めているところをみると、この学会での活動がその礎になっていることを痛感しています。

これまでに研究、地方会活動などでできた人のつながりを活かし、特に若い研究者の育成に取り組みつつ、地方会の発展に力を尽くしたいと考えています。地方会の皆様には引き続き、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

学会功労賞を受賞して

鈴木 秀吉 (トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 統括産業医)



功労賞は思いもしないことでしたが、有り難く戴きました。これまでの思いと研究的歩みを記します。

時には情熱的な正義感のもとに行動することもありましたが、通常はのんびりと後ろから押されて動く生活をしてきました。

1. 自然の中で生きた人間の歴史・歴史を創ってきた人間の行動を規定してきた自然環境と精神活動、その精神活動の根元と思われる大脳を含めた脳生理学に興味を感じます。

2. 1961年春、名古屋大学医学部衛生学講座に助手として入局し、井上 俊教授から何をやりたいかと問われ、『疲労に取り組みたい』と答えたのを覚えています。抄読会・研究会も活発な意見交換が行われ、いつのまにか若輩でも物怖じせず発言する癖が付いたと思います。

3. 伝統的に有機溶剤に関する研究が大きな柱でしたが、労働生理学的な研究の発想を受け入れ、そのために必要な環境作りが行われました。名大第1生理学では容積脈波とGSRを指標にした研究が行われていたので、度々研究室を訪れ、教を請い、活用できました。

4. 当時有害物質の許容濃度を定めるための評価方法が学会としても大きな課題となっていました。ソ連の文献に多く見られた条件反射などを用いた生理学的機能を指標とした評価方法に魅了されました。

5. 大企業のフィールドで頸肩腕障害、皮膚障害などの実践的研究がいくつかできました。

6. 1972年の秋、福島県立医科大学衛生学講座の助教授として、星島啓二郎教授の下に赴任し、マウスを用いた有機溶剤暴露後24時間記録する行動学的研究を始めました。福島県民間林業労働者の振動障害に関する巡回健診を冬季県内ほぼ全域にわたり15年間続けました。また鉄鋼産業の振動工具使用者の振動障害健診を依頼され実態を明らかにしました。IT企業のVDT作業者を対象に自覚症状調査研究を実施できました。

『学術連携研究会』のめざすところ

齊藤 政彦 (大同特殊鋼(株) 統括産業医)



学術連携研究会が東海地方会内に設立されて1年半が経過しました。これまで研究討論会や教育講演などを主催してきましたが、今後は具体的な研究プロジェクトを進める環境作りに取り組みたいと考えています。

日本産業衛生学会は学術団体として、調査研究を通してエビデンスを示し、それをもって社会に貢献することを使命としています。産業中心の日本において、労働者の健康保持増進を担う産業衛生学の医学における意義は大きく、その分エビデンスが強く求められています。ところが近年、諸問題から思うように調査研究が実践できない状況に直面しています。その結果、大学や研究機関にとって、産業現場がフィールドとして魅力を失いつつあり、一方で、産業衛生スタッフの学会研究活動が企業から正當に評価されないという現状があります。

これらを解決するには努力が必要と考えます。企業に学会の意義を認めてもらうには、機会あるごとに目に見える形で学会の意義を訴えていくことが大切でしょう。また学会全体として産業衛生学の重要性を積極的にアピールすることも必要と考えます。昨年実施したアンケート調査で、研究をしたくてもできない一番の理由は「時間的余裕のなさ」でした。忙しい中で取り組むには、産業衛生学研究の優先順位を上げることが不可欠です。つまり、取り組む価値を高める。そのためには学問として社会的に注目されることが必要でしょう。もう一つ、時間と労力の節約という点で、各会員の能力を活かすように連携して要領よく進めることも大切です。

研究会の今後ですが、エビデンスには質があります。質の高さを求めれば、参加者の負担が増大し、逆に、取り組みやすさを優先させれば、エビデンスの質が下がります。この両面をどう折り合いをつけ、具体的に何を実施するか、議論しつつ進めていきたいと考えます。何事も一人で取り組むのは大変ですが、研究会としてみんなで立ち向かえば心強いですし、なによりいろんな知恵が湧きます。さらにお互い刺激しあって熱意を鼓舞して意欲を持続させることも可能です。学術連携研究会はこういった学会員の研究活動の土俵となることを目指したいと思います。

地方会研究会・部会開催報告

第5回産業医部会懇話会

日時：2009年6月13日(土) 14:00～16:30

場所：中部大学名古屋キャンパス5階510講義室

メインテーマ：メンタルヘルス不調者を出さない組織・企業作り

講演1：メンタルヘルス一次予防活動の展開

～組織心理による職場アプローチ

高崎正子(東芝四日市)

講演2：当社における人材・職場活性化への取り組み

神宮純緒(日立製作所)

参加：58名

第75回職場ストレス研究会

日時：2009年7月15日(水) 14:00～16:00

場所：明倫ホール

講演：肥満と職場ストレス 西谷直子(東レ愛知)

参加：34名

第2回産業衛生学術研究討論会

日時：2009年10月3日(土) 9:30～12:30

場所：名古屋市立大学医学部研究棟11階講義室B

第1部：事例検討 それぞれの立場で学術研究を実践する、問題点の解説方法の模索

飯田忠行(藤田保衛大公衛)、

田原裕之(トヨタ自動車田原)

第2部：産業衛生学のエビデンスを創る、そのために何をすべきか?

齊藤政彦(大同特殊鋼)

参加：24名

新しく選出された地方会理事

リスト中、「*」は地方会長推薦理事、無印は東海地方会選出代議員を兼任。代議員選出後の異動により定員との過不足が生じている場合があります。

■岐阜県：6名（代議員定員6名）

井奈波良一 岐大院医産業衛生学分野
 梅津美香 岐阜県立看護大成熟期看護学
 黒川淳一 東海学院大健康福祉学部
 *小西美智子 岐阜県立看護大学
 牧野茂徳 岐阜大学医学部看護学科
 綿貫ルミ子 ソニーイーエムシーエス（株）
 美濃加茂テック

■静岡県：13名（代議員定員13名）

青山京子 聖隷健康診断センター
 秋山泉 東レ（株）三島工場健康管理室
 足立留美子 パナソニックEVエナジー（株）
 内野文吾 ヤマハ発動機（株）健康推進センター
 大久保浩司（株）矢崎総業
 *尾島俊之 浜松医科大学 健康社会医学
 倉田千弘 ヤマハ健康管理センター
 坂元富美夫 聖隷健康診断センター
 住吉健一 旭化成（株）富士支社健康管理センター
 巽あさみ 浜松医科大学医学部看護学科
 土屋真知子 静岡県産業環境センター
 新島邦行 スズキ（株）本社医務室
 野木孝眞 関東自動車工業（株）東富士工場
 武藤繁貴 聖隷健康診断センター

■愛知県：41名（代議員定員37名）

赤松康弘 愛知医科大学医学部衛生学
 石川浩二 三菱重工業（株）大江西・飛島健康管
 理科
 市原学 名大院医環境労働衛生学
 市丸麻衣子 三菱重工業名航大江西健康管理室
 岩田全充 トヨタ自動車（株）安全健康推進部
 浦上年彦 トヨタ自動車（株）安全健康推進部
 榎原毅 名市大院医 環境保健学分野
 小野雄一郎 藤田保衛大医学部公衆衛生学
 *加藤尚一 かとうデンタルクリニック
 加藤隆康（株）グッドライフデザイン
 金山敏治 岡崎労働衛生コンサルタント事務所
 上島通浩 名市大院医学研究科 環境保健学分野

栗田秀樹 藤田保衛大医学部衛生学
 小林章雄 愛知医科大学医学部衛生学
 齊藤政彦 大同特殊鋼星崎診療所
 酒井潔 名古屋市衛生研究所
 酒井康子 トヨタ記念病院メディカルサポート部
 産業医学グループ
 榊原久孝 名古屋大学医学部保健学科
 柴田英治 愛知医科大学医学部衛生学
 杉本日出子（株）ジェイテクト安全衛生管理部
 鈴木初子 愛知医科大学看護学部
 竹内康浩 名古屋大学名誉教授
 城憲秀 中部大生命健康科学部保健看護学科
 谷脇弘茂 藤田保健衛生大学医学部衛生学
 土屋博信 名古屋市衛生研究所疫学情報部
 寺澤哲郎 三菱東京UFJ銀行健康センター
 長岡芳 大医会 予防医学推進・研究センター
 *中垣晴男 愛知学院大学歯学部口腔衛生学
 中元健吾 日本ガイシ（株）安全衛生グループ
 那須民江 名大院医環境労働衛生学
 西谷直子 東レ（株）愛知工場
 *原康二 愛知産業大学三河歯科衛生専門学校
 久永直見 愛知教育大学保健環境センター
 福井明（株）ジェイテクト刈谷工場診療所
 *堀礼子 愛知医科大学医学部衛生学
 宮尾克 名古屋大学情報連携基盤センター
 村崎元五 名古屋郵政健康管理センター
 山田琢之 なごや労働衛生コンパイル事務所
 吉田勉 名城大学薬学部臨床医学研究室
 和田晴美 国際セントラルクリニック
 渡邊美寿津 愛知医大医産業保健科学センター

■三重県：9名（代議員定員8名）

尾辻典子 尾辻内科クリニック
 川出鈴代 日本トランスシティ（株）
 北村文彦 三重大院医公衆衛生・産業医学分野
 *後藤由紀 四日市看護医療大学
 小西泰元 三菱化学四日市健康管理センター
 高崎正子（株）東芝セミコンダクター社
 四日市工場総務部健康支援センター
 *高橋悦子 四日市看護医療大学
 村田真理子 三重大院医環境分子医学分野
 和田文明 三重産業保健推進センター

平成 21 ～ 22 年度 東海地方会執行体制及び役員

名誉会長：竹内康浩

地方会長：小林章雄

事務局長：柴田英治

副事務局長：赤松康弘

学術・国際部

部長：小野雄一 副部長：榊原久孝 堀礼子

事業部

部長：寺澤哲郎 副部長：杉本日出子 城憲秀

総務部

部長：上島通浩 副部長：巽あさみ

地方会ニュース編集委員会

委員長：柴田英治 副委員長：城憲秀 渡邊美寿津

産業医部会

部会長：岩田全充 副部会長：村崎元五

産業看護部会

部会長：杉本日出子 副部会長：高崎正子

世話人：青山京子 梅津美香 和田晴美

産業衛生技術部会

部会長：城憲秀 副部会長：加藤隆康

産業歯科部会

部会長：原康二 副部会長：加藤一夫

世話人：加藤尚一 金山敏治 中垣晴男（顧問）

各県幹事

愛知県：吉田勉 静岡県：秋山京

岐阜県：牧野茂徳 三重県：和田文明

監事：上原正道 高柳泰世

本部関連

本部理事：小林章雄 齊藤政彦 吉田勉

産業医部会本部幹事：岩田全充 齊藤政彦

寺澤哲郎

産業看護部会本部幹事：高橋悦子 杉本日出子

高崎正子

オブザーバ：和田晴美（産業看護講座担当責任者）

産業衛生技術部会本部幹事：加藤隆康 土屋眞知子

城憲秀

産業歯科保健部会本部幹事：金山敏治（監事）

愛知県医師会産業保健部会幹事：吉田勉 齊藤政彦

平成 20 年度事業報告

1. 総会を 2008 年 7 月 11 日（金）に岐阜市で開催した。

2. 理事会を 4 回（2008 年 5 月 17 日、9 月 6 日、12 月 13 日、2009 年 2 月 14 日）開催した。

3. 部長会を 1 回（2008 年 7 月 5 日）開催した。

4. 各部による活動を以下のように実施した。

1) 学術・国際部

(1) 平成 20 年度日本産業衛生学会東海地方会学会を三重県で以下のように開催した。

日 時：平成 20 年 11 月 22 日（土）

10：00～16：50

場 所：三重大学医学部臨床第 2 講義室

学会長：横山和仁（三重大学大学院医学系研究科
公衆衛生・産業医学分野）

テーマ：21 世紀の産業医学

企 画：

一般演題 16 題

基調講演 「これからの労働衛生」

荒記俊一（（独）労働安全衛生総合研究所）

特別講演 1 「これからの産業保健・看護」

河野啓子（四日市看護医療大学学長）

特別講演 2 「職業性ストレスの一次予防：科学的根拠と実践への連携方策の現状」

川上憲人（東京大学大学院医学系研究科）

教育講演 「環境因子による発がん」

村田真理子（三重大学大学院医学系研究科）

参加者数：会員 90 名（含：名誉会員 1 名）、
非会員 27 名

(2) 研究会活動を以下のように実施した。

①第22回振動障害研究会

日 時：2009年2月21日(土)

13:00～16:30

場 所：名古屋大学医学部保健学科・本館1階
THPセミナー室

演 題：

1. 人体振動に関するEU Directiveの戦略と振動障害等の防止に係わる作業管理のあり方検討会の結果との関係 前田節雄((独)労働安全衛生総合研究所)
2. 手腕振動に関わるEU指令とメーカーの対応 畠山常人((株)マキタ)
3. イギリスHSE・ドイツBGIA&DGUVの振動障害と騒音性難聴の予防などの取り組みについて—EU訪問調査から— 神田豊和(全日本建設交運一般労働組合)

参加者：19名

②職場ストレス研究会

・第72回

日 時：2008年7月16日(水)

14:00～16:00

会 場：明倫ホール(名古屋市中区)

テーマ：「メンタルヘルス対策としての組織心理的アプローチ」

講 師：高崎正子(株)東芝セミコンダクター社
四日市工場総務部 健康支援センター)

参加者：47名

・第73回

日 時：2008年11月12日(水)

14:00～16:00

会 場：明倫ホール(名古屋市中区)

テーマ：参加型セミナー「メンタルヘルス事例復職成功のポイント」

講 師：石川浩二(三菱重工)、渡邊美寿津(愛知医科大学産業保健科学センター)

参加者：47名

・第74回

日 時：2009年2月18日(水)

14:00～16:00

会 場：明倫ホール(名古屋市中区)

基調講演 「アルコール関連問題の多様性と職場での対応」 西山 仁(西山クリニック院長 日本アルコール関連問題学会評議員)

話題提供 「問題飲酒に対する新しい介入の動向について」 廣 尚典(産業医科大学 産業生態科学研究所 精神保健学 准教授)

参加者：45名

③第2回グローバル化と安全衛生研究会

日 時：2009年2月7日(土)

13:30～15:30

会 場：中部大学名古屋キャンパス6階講義室

話 題：

「グローバル化の中の安全衛生—感染症を中心として—」 宮崎 豊(豊田自動織機)

「アジアにおける労組主導の自主的労働安全衛生トレーニング(POSITIVE)」 城 憲秀(中部大学)

「愛教大が進める開発途上国の技術教育支援プロジェクト」 久永直見(愛知教育大学)

参加者：23名

④学術連携研究会

・第1回 産業衛生 学術研究討論会

日 時：2008年9月20日(土)

13:00～16:00

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館2階会議室

第一部：産業衛生学術関連アンケート調査結果報告 石川浩二(三菱重工(株))

第二部：事例提示、および産業衛生学術研究をとりまく諸問題に関する討論

事例発表 武山英磨(東海学園大学)

新島邦行(スズキ(株))

杉本日出子(ジェイテクト(株))

参加者数：29名

・第 1 回学術連携研究会教育講演

日 時：2008 年 11 月 22 日 (土)

17:00 ~ 18:00

会 場：三重大学医学部臨床第 2 講義室

テーマ：「東海地方会会員による産業現場立脚型
研究活動への期待」

講 師：小野雄一郎 (藤田保健衛生大学)

参加者数：46 名

2) 事業部

(1) 平成 20 年度日本産業衛生学会東海地方会総会並
びに研修会を岐阜市で以下のように開催した。

日 時：2008 年 7 月 11 日 (金)

10:10 ~ 16:15

会 場：ホテルグランヴェール岐山 (岐阜市)

企画運営委員会代表：加藤保夫 (岐阜県産業保健
センター)

プログラム：

特別講演 1 「産業医・保健師・管理栄養士のた
めの運動指導の実際」 — 職域で運
動習慣を定着させるポイントについ
て — 関谷日登美 (渡辺内科クリ
ニック・朝日大学非常勤講師)

東海地方会総会

特別講演 2 「職場で役立つ論理療法の概念とそ
の応用」 — 労働者からの相談事例を
中心に — 山崎和代 (トータルセラ
ピー・レールドプランタン代表)交流会 (身近な産業衛生問題についての自由討
論)特別講演 3 「慢性腎臓病 (CKD) ガイドライ
ンの理念とその概要」 — 職域健診で
発見された蛋白尿とその悪化要因に
どう対処すべきか — 石塚達夫 (岐
阜大学大学院医学研究科総合病態内
科学分野 教授)

参加者：会員 80 名、非会員 17 名

(2) 第 23 回産業保健スタッフのための研修会を企画
準備した。(開催は平成 21 年度)

日 時：2009 年 3 月 6 日 (金)

10:00 ~ 16:50

場 所：名城大学薬学部 ライフサイエンスホー
ル

プログラム：

講演 「企業における新型インフルエンザ対策
と産業保健職の関わり」 岩田全充 (ト
ヨタ自動車健康支援センターウエルボ所
長 統括産業医)講演 「海外渡航者の健康管理」 安川隆子 (聖
隷浜松病院総合診療内科)

指定発言 佐藤理之 (愛知県歯科医師会理事)

講演 「認知症の予防と治療 — その基本的理
解と産業保健的対応について —」 柳
務 (認知症介護研究・研修大府センター、
名古屋第二赤十字病院名誉院長)講演 「非正規労働と健康」 矢野栄二 (帝京大
学医衛生学公衆衛生学)

5. 各部会による活動を以下のように実施した。

1) 産業医部会

① 第 4 回東海産業医部会懇話会

日 時：2008 年 5 月 24 日 (土)

14:00 ~ 17:00

場 所：愛知健康増進財団 5 階会議室

テーマ：復職が継続できている「適応障害」例
参加者：35 名② 第 23 回産業保健スタッフのための研修会の企画
準備に協力した。

2) 産業看護部会

① 産業看護部会研修会 (共催：衛生管理業務研究会)

日 時：2008 年 10 月 24 日 (金)

13:30 ~ 16:45

場 所：法研中部ビル

講 師：横田 碧 (岩手県立大学名誉教授)

テーマ：保健面接の進め方 (ロールプレイ主体)
参加者：45 名 (部会員 10 名)② 産業看護職継続教育システム短縮 N コース講座
(主催：愛知産業保健推進センター) に協力した。
月 1 回開催、2009 年 2 月 7 日 (土) 修了。参
加者約 20 名。③ 第 23 回産業保健スタッフのための研修会の企画
準備に協力した。④ 産業看護職継続教育システム実力アップコース単
位認定を推進した。研修会、セミナー開催時の単位認定申請及び研修
手帳への押印。年間約 200 件。

⑤愛知県下における産業看護職実態調査に協力した。

⑥日本産業衛生学会及び産業看護部会入会の啓蒙活動

3) 産業衛生技術部会

①東海地方会産業衛生技術部会大会（第 41 回衛生管理者研修交流会と併催）

日 時：2008 年 11 月 12 日（水）
13：30～16：30

参加者：50 名

②第 23 回産業保健スタッフのための研修会の企画準備に協力した。

4) 産業歯科部会

①第 3 回産業歯科部会研修会

日 時：2008 年 11 月 13 日（木）13：30～
場 所：(株)東レ・モノフィラメント（岡崎市）
内 容：工場見学

参加者：14 名

②第 23 回産業保健スタッフのための研修会の企画準備に協力した。

6. 役員選挙

2008 年本部役員選挙ならびに地方会役員選挙を実施し、新役員・役員候補を選出した。

7. 地方会ニュース編集委員会

地方会ニュースの発行（73～75 号）を行った。

8. 東海地方会ホームページの運営

事務局の管理で UMIN に設置したホームページの運営を行い、地方会関連行事、理事会の案内などを行った。（<http://tosh-net.umin.jp/>）。

平成 21 年度東海地方会事業計画

1. 総会を 2009 年 6 月 26 日（金）に四日市市で開催する。

2. 理事会を 4 回開催する。

3. 部長会を適宜開催する。

4. 各部により以下の活動を行う。

1) 学術・国際部

(1) 平成 21 年度日本産業衛生学会東海地方会学会

日 時：平成 21 年 11 月 14 日（土）

会 場：名古屋市立大学 医学研究科研究棟

学会長：上島遙浩（名古屋市立大学大学院医学研究科 環境保健学分野）

(2) 研究会

(a) 職場ストレス研究会

(b) 振動障害研究会

(c) グローバル化と安全衛生研究会

(d) 学術連携研究会

2) 事業部

(1) 平成 21 年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会

日 時：2009 年 6 月 26 日（金）

10：00～17：00

会 場：四日市農協会館 8 階 南ホール

企画運営委員会代表：和田文明（三重産業保健推進センター所長）

(2) 第 24 回産業保健スタッフのための研修会

2010 年 3 月の金曜日に開催予定

3) 総務部

(1) 東海地方会事務局の業務補助

5. 地方会各部会活動

1) 産業医部会

①第 5 回東海産業医部会懇話会

日 時：2009 年 6 月 13 日（土）

14：00～16：30

場 所：中部大学名古屋キャンパス 5 階 510 講義室

②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。

- 2) 産業看護部会
- ①産業看護職継続教育システム短縮 N コース講座
(主催: 愛知産業保健推進センター) に協力する。
 - ②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。
 - ③看護部会研修会を開催する。
- 3) 産業衛生技術部会
- ①東海地方会産業衛生技術部会大会 (衛生管理者研修交流会と併催)
 - ②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。
- 4) 産業歯科部会
- ①第 4 回東海産業歯科部会研修会
日 時: 平成 21 年 11 月 7 日 (土) 18:30 ~
場 所: 名古屋ガーデンパレス
 - ②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。
6. 地方会ニュース編集委員会
- 地方会ニュースを年度内に 2 号まで (76 号、77 号) 発行する。
7. 東海地方会ホームページの運営
- 事務局の管理で UMIN に設置したホームページを運営し、地方会関連行事、理事会などを案内する。(http://tosh-net.umin.jp/)
- ・会費: 東海地方会会員 4,000 円、非会員 5,000 円
・定員: 300 名
・プログラム
(午前)
講演 「産業保健における疫学入門」
浜松医科大学 健康社会医学講座
教授 尾島俊之
講演 「特定保健指導の効果的な実践 ~運動・生活活動支援のポイント」
立命館大学理工学部ロボティクス学科
准教授 真田樹義
指定発言
愛知学院大学歯学部 口腔衛生学講座
准教授 加藤一夫
(午後)
講演 「職場における自殺への対応一予防から対応まで」
大阪樟蔭女子大学大学院人間科学部心理学科
教授 夏目 誠
講演 「職場ストレス調査と改善対策~その実際と留意点」
三菱重工業 (株) 大江西・飛島健康管理科
石川浩二
日本医師会認定産業医単位 基礎・後期または生涯・専門 計 4 単位 (申請予定)
日本産業衛生学会産業看護継続教育システム実力アップコース 計 4 単位 (申請予定)
中央労働災害防止協会 THP レベルアップ研修 1 単位 (申請予定)

これからの行事予定

第 24 回産業保健スタッフのための研修会 (第 1 報)

産業医・産業看護職・衛生管理担当者を含む産業保健スタッフを対象とした研修会です。学会員でないスタッフにも参考になるような幅広いテーマで開催しています。(3 年前までは「産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会」の名称でした)

- ・日時: 2010 年 3 月 6 日 (土)
- ・場所: 名城大学薬学部 ライフサイエンスホール
(地下鉄八事駅下車、徒歩約 5 分)

東海産業衛生技術部会 第 1 回特別講演会

- ・日 時: 2009 年 12 月 19 日 (土)
13:00 ~ 16:00
- ・場 所: 中部大学名古屋キャンパス 6 階 610 教室
(JR 中央線鶴舞駅 西隣)
- ・資料代: 東海地方会会員は無料、非会員は 500 円
- ・テーマ: これからの環境管理のあり方・考え方
講演 1 「ベンチマーク法による臨界濃度評価と利用法」
村田勝敬 (秋田大学・医・環境保健学)
講演 2 「管理濃度とリスク管理」
中明賢二 (麻布大学)

会員の異動 (2008.12.1 ~ 2009.10.31)

(1) 新入会

愛知①榊原洋子 (愛知教育大)

②近藤康明 (国際セントラルクリニック)

③大橋裕子 (中部大)

④八木佳子 (ファイザー)

⑤安藤冬華 (東海旅客鉄道)

⑥大島圭恵 (東海理化)

⑦久野薫 (ソニー健康保険組合)

⑧櫻木幸枝 (中部大)

⑨神山詩子 (中部大)

⑩安岡英毅 (中京病院)

⑪早川徳香 (南山大)

⑫筋野育子 (藤田保健衛生大)

⑬加藤美津子 (旭硝子)

⑭八尋華那雄 (中京大)

⑮神取祥和 (産業医学研究所)

⑯宇野甲矢人 (宇野病院)

⑰中出泰充 (なかいで内科)

⑱山内雅博 (あさひ内科)

⑲村瀬卓平 (東海旅客鉄道)

⑳清水江津子 (トヨタ自動車)

㉑志賀正広 (メグミデンタルクリニック)

㉒朝長健太 (日本たばこ産業)

㉓小栗亮一 (アリコジャパン)

㉔長西幸 (名古屋郵政健康管理センター)

㉕久米智美 (ブラザー健康保険組合)

㉖飯干めぐみ (シーアール三河)

㉗小栗太一 (名古屋通信病院)

㉘明神洋子 (パナソニック電工)

㉙日笠ちはる (ブラザー工業)

㉚奥村秀則 (名鉄病院)

㉛尾崎伊都子 (名古屋市大)

㉜佐々木恵 (名古屋市大)

㉝岡本諭美 (豊田安全衛生マネジメント)

㉞堀知絵美 (西尾市民病院)

㉟柴田恵理子 (ルーセントジェイズクリニック)

㊱加藤一夫 (愛知学院大)

㊲田所直子 (トヨタファイナンス)

㊳越川加奈子 (タマディック)

㊴伊藤牧 (名大)

静岡①岩瀬克敏 (聖隷健康診断センター)

②内藤有美 (パナソニック EV エナジー)

③鈴木志津江 (浜名湖電装)

④水田明子 (浜松医大)

⑤大塚敏子 (浜松医大)

⑥鳥羽山睦子 (聖隷福祉事業団)

⑦野畑俊介 (聖隷予防検診センター)

⑧奥柿智子 (ブリヂストンエラストック)

⑨富田勝代 (聖隷健康診断センター)

⑩鈴木仁 (ヤマハ発動機)

⑪山本愛 (聖隷健康診断センター)

⑫中野幾太 (いくた内科医院)

⑬大山邦雄 (沼津市立病院)

⑭尾島俊之 (浜松医大)

⑮須藤里美 (住友ベークライト)

⑯菊地慶子 (浜松医大)

⑰吉川裕之 (聖隷健康診断センター)

⑱小田切圭一 (ヤマハ健康管理センター)

⑲丸山薫 (御殿場テトラパック)

㉑野中洋 (小糸製作所)

三重①吉田美昌 (三重県健康管理事業センター)

②谷井久志 (三重大)

③近藤育夫 (松阪総合病院)

④水谷哲夫 (霞コンビナート診療所)

⑤加藤由佳 (富士電機システムズ)

⑥浅間信治 (パナソニックエレクトロニックデバイス)

⑦長井一 (長井歯科医院)

⑧下町敏江

⑨小寺真智子 (AGF 鈴鹿)

岐阜①山内香奈 (イビデン)

②田中新一郎 (川崎重工業)

③加藤誠 (以仁会)

(2) 転入

愛知①真鍋龍治 (東海旅客鉄道) (九州から)

②大槻洋三 (トヨタ自動車) (九州から)

③小出真一郎 (東海旅客鉄道) (関東から)

④田中完 (新日鐵) (九州から)

⑤正木みゆき (中部空港検疫所) (近畿から)

⑥須知雅史 (須知医院) (関東から)

⑦石川身佳 (アサヒビール) (関東から)

静岡①中本真理 (東海旅客鉄道) (九州から)

②佐藤えり子 (聖隷健康診断センター) (北陸
信越から)

③長谷川吉則 (三島共立病院) (関東から)

④山本誠 (ヤマハ) (九州から)

⑤識訪良子（聖隷沼津健康診断センター）（関東から）

⑥村山隆志（関東から）

⑦松澤聖奈（聖隷健康診断センター）（関東から）

三重①高田未里（三重大）（関東から）

(3) 転出

愛知①岡村愛（名大）（近畿へ）

②鈴木秀樹（大同メタル工業）（関東へ）

③大岩給美（グッドライフデザイン）（関東へ）

静岡①坂本宣明（東芝テック）（関東へ）

②黒本和志郎（ヤマハ発動機）（九州へ）

③田口要人（ヤマハ健康管理センター）（九州へ）

④吉岡学（JR 東海静岡健康管理センター）（九州へ）

⑤中野紳一郎（スズキ）（九州へ）

三重①横山和仁（三重大）（関東へ）

②井上智博（志摩病院）（近畿へ）

(4) 退会

愛知①丹下智香子（国立長寿医療センター）

②貴田真紀（昭和保健所）

③張淑芸（名大）

④内山集二（星崎診療所）

⑤梶田悦子（名大）

⑥大杉茂樹（デンソー）

⑦加藤亮（東海市民病院分院）

⑧山村勲弘（東海ゴム工業）

⑨櫛田恭子（プラザ一健康保険組合）

⑩前田なぎさ（NTT 東海健康管理センター）

⑪畝山常人（マキタ）

⑫山野恵美子（旭サナック）

⑬近藤隆久（デンソー）

⑭岡本浩一（名城大）

⑮加藤ふくみ（東京海上日動火災保険）

⑯奥谷博俊

⑰安井典子（社会保険健康事業財団）

⑱木全明子（名大）

⑲堀江知恵子（名古屋高等裁判所）

⑳都築實紀（大同特殊鋼）

㉑山口由美子（JTB）

㉒安藤すみ江（国際セントラルクリニック）

㉓田口妙子（トヨタ自動車）

㉔佐橋将夫（サハシ歯科医院）

㉕中尾猛仁（全日本労働福祉協会）

㉖久米裕昭（朝日新聞）

静岡①土屋賢治（浜松医大）

②中島容一郎（聖隷沼津病院）

③釜中明（パテラ研究所）

④門田しず子（プリDESTON）

三重①林文代（三重県立看護大）

②福森和子

③鳴神雅典（鳴神歯科）

岐阜①奥井幸子（岐阜県立看護大）

②下井勝子（岐阜医療技術短大）

③藤井皓（川崎重工）

④栢田伸二（栢田歯科クリニック）

(5) 地方会内転入出

岐阜→愛知①西尾彰泰（松蔭病院）

愛知→静岡①須田治（東海旅客鉄道）

②杉本怜子（静岡銀行）

岐阜→静岡①内藤修（寺田クリニック）

愛知→三重①平賀誠三（マイカル桑名アイクリニック）

地方理事会

2009年度第1回理事会

日時：2009年6月6日（土）10:00～12:00

場所：中部大学名古屋キャンパス6階610講義室

出席者：32名

【議題】

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

1) 本部報告事項 2) 地方会事務局報告事項 3) 第23回産業保健スタッフのための研修会回費報告 4) 平成21年度総会並びに研修会準備状況 5) 平成22年度地方会学会準備状況 6) 愛知県医師会産業保健部会報告 7) 地方会部会報告 8) 地方会ニュース 9) 関連学会・研究会開催報告 10) 今後の学会・研究会等 11) その他

C. 協議事項

1) 平成21～22年度地方会執行体制及び役員（案）について 2) 平成21年度地方会事業計画（案）、予算（案）について 3) 平成21年度地方会総会の議事次第と資料について 4) その他

2009年度第2回理事会

日時：2009年9月5日（土）10：00～12：00

場所：名古屋会議室名駅西口店第3会議室

出席者：38名

【議題】

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

1) 本部報告事項 2) 地方会事務局報告事項 3) 平成21年度総会並びに研修会開催報告 4) 平成21年度地方会学会準備状況 5) 第24回産業保健スタッフのための研修会準備状況 6) 愛知県医師会産業保健部会報告 7) 地方会部会報告 8) 地方会ニュース 9) 関連学会・研究会開催報告 10) 今後の学会・研究会等 11) その他

C. 協議事項

1) 平成22年度総会並びに研修会について 2) 平成22年度地方会学会について 3) その他

●●●●●●●●●● 学会入会のお誘い ●●●●●●●●●●

日本産業衛生学会に入会して産業衛生に関する知見を深めませんか。

入会手続きや地方会の行事予定は、地方会ホームページでご案内しています。

日本産業衛生学会東海地方会事務局

〒480-1195 愛知郡長久手町大字岩作字雁又21

愛知医科大学医学部衛生学講座 内

TEL&FAX：0561-62-3580

e-mail：aratokai@aichi-med-u.ac.jp

東海地方会ホームページ：

http://tosh-net.umin.jp/

◆平成21年度 奥谷賞 候補者募集◆

平成21年度奥谷賞の候補者を下記のように募集いたします。ふるってご応募下さい。

応募用紙に必要な事項を記入し、応募者がファーストオーサーである論文の別刷りまたはコピー5部（in pressの場合は、その証明文書と最終ドラフト）を下記まで郵送してください。

応募書類送付先：

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1

名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学教室同門会「奥谷賞選考委員会」宛

締め切り：平成21年12月31日（消印有効）

奥谷賞の趣意書や応募用紙などは、名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学分野ホームページ

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/index.html> をご参照ください。

奥谷賞選考委員会

✍ 編集後記

地方会ニュース第76号、大変遅くなってしまい、ご迷惑をおかけしました。これまで谷脇編集委員長が長年着実な発行に努力されたことには全く頭が下がります。しかし、いつまでも谷脇先生に甘えるわけにはいかないと考え、今回多少の無理は承知で地方会事務局で編集を担当することとしました。来年度には新しい編集委員長の下で改めてスタートしたいと考えています。今回の編集方針はこれまで続けてきたものかなり異なっています。廃止された地方会誌に代わる記録性を重視して、総会決定の一部を掲載しました。今後のニュースのあり方については様々なご意見があることと思います。今回の編集責任者交代を機に積極的にご意見をいただければ幸いです。（柴田）